# 艶歌選

全

208
101
帝国図書館蔵

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

艶歌選

208
101

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

九 浅草 金龍堂 侍 貝

# 豔歌選敘

昇平之世方嚮風雅人人去近就遠舍易求難動輒從事於中華之學末學之徒薄技作癢往往翻和歌以成華詩而多是孟浪模糊不可誦也謂之風雅可



国立国会図書館　豔歌選 208-101

ガラス使用

乎徒作無用已蓋和華言語異
宜乃至如歌謠最大不同矣苟
非極材盡技者則安能諷詠以
通彼此之情乎末學之徒之不
能固其所也烏有先生嘗遊酒
肆毎聞妓歌便援筆詩之斷章



別句縱横變化翻得而妙矣此
作也不假思索只是酒間之戲
耳雖則戲乎其妙如此不亦以
平生極材盡技之故乎屬有好
事者繡梓以成小冊名曰豔歌
選凡世人欲去近舍易從事於

国立国会図書館　豔歌選 208-101

ガラス使用

中華之學者朝諷夕詠由是而學焉則庶幾通和華之情而知末學之徒之詩孟浪模糊不可誦也乃可爲就遠求難之一助矣然則先生戲作雖小乎而使人人興於風雅厥功不亦大乎



昇平之世隆盛之運自有好事者繡梓以行于時宜焉哉

丙申初春

馮虛甫敘

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

附言

一和華相去遼遠異言殊音翻此歌以成彼詩斟酌增減各適其宜要在通情取意不必句句而翻之字字而譯之

一里巷歌謠率出于流俗兒女之



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

口而翻之以成詩自不得渾雅矣間亦有翻難翻者殆不免牽強焉總是杯酒餘興聊自玩耳而或人栞行于世蓋欲使幼學之徒悅而誦之習熟通曉乃至於詩道也固非近時狡兒輩徒



離之言自以爲詩爲文鍥諸梨棗但供和俗顧笑段使華人看之則不知何言之比也世人幸詳焉

一鳥獸艸木之名有自昔誤來者今之所詠不敢是正直從世俗

国立国会図書館　艶歌選 208-101

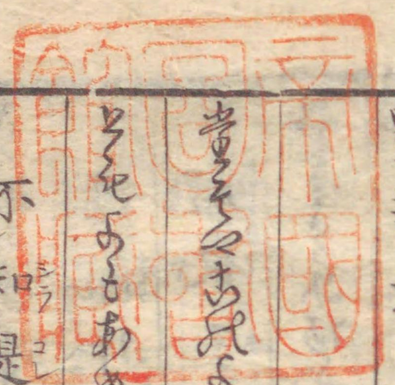
ガラス使用

稱呼庶幾童蒙易誦且解一也



# 豔歌選

## 烏有子著



堂々たる門をたくさんふさぐ
ちりもあるものをよくはらはず

不知是誰子一夜半敲門來
儂未與人約雖敲門可開

国立国会図書館　豔歌選 208-101

ガラス使用

海ゑのぞいおもゝげの寄るとゝ
きゝ波おとゝまさりて
懷郎片時寐
分明見顔色
豆夜子規啼
夢覺空歎息
あまさゝふねとても我ぬれまさるたもとゝ
あすは別まさりてゆく波のさきたゝて



與沿一鮮逈
龍鐘雙袖濕
明朝將爲別
中夜先相泣
三保松風絶
海頭濤不驚
祇看月映水
還望富山明

みしら秋は夢さえておもひぐまむしの
なりあるる思ひをふかくこん

殘宵夢已醒　紈扇撲流螢

愁思共誰語　銀燈冷畫屏

なりくふんをうつむきてこ思ひたのくふ
かすみうち思ふふ秋はどいとのかくき

不必恨夫君　白頭自吟咏

寂寥綠綺琴　但憐妾薄命

春きのこなりあてもかくたりおしあ
秋の夜をいつ清ふすふ

雲外看明月　轉憐秋夜長

無情世上客　徒爾負風光



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

ひよく連理のかくしたもうたまはかんこの世のなごり
さりとてはうらむまでもなく昔はあるさまをあはれ
已爲比翼鳥 復作連理枝
今日世情變 何由戀昔時
雲はあるものなれしるもあるふせん
なさりおきいそのかくてはあるこ君のかつるさ



曉風吹白雪 樹杪作花飛
遲君君纜至 更耐送君歸
むさゝ野ふ行ゝまてゆをなりめてゝまゝゝ
あひゝさんを夢にゝん事うゝゝねのそでもぬる
武陵行向夕 吟月宿草際
石枕夢玉人 白露降沾袂

国立国会図書館　艶歌選 208-101
ガラス使用

秋の夜ハ雨をゆきなほ和みかゝふる
松風さやかなれとなほ高のてをぞきゝ紀

夜闌秋氣清　山上月西傾

蕭瑟松濤外　超遥聞鹿鳴

おのゝ絵をゆゝしのゝ色こゝろ
ゝろ北人ゝろうきをゝむこよいう紀



七來無所娯　最是戀皇都

今夕慰羈思　江邨詩酒徒

おもひゝゝをてゝ体をゝふきい昔ゝ
思ひ出ゝるゝ出ひゝきもゝゝにゝゝゝゝ

多情経歲月　昔遊共誰語

空房今夜愁　獨宿涙如雨



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

三月廿四日新年人毎のうきぶし

ちさとの初の人まてもさぞなるめ

三五夜中月　明輝正堪憐

二千里外客　徹曉詠涼天

おりゐ収れ月のてらすうちにあけのこ

さめていはもさあてはさはさあてはなれ



憶歡只自寐　就枕聊相値

曉來夢旋醒　依然獨垂淚

ゆく秋ありし浦のなごりうきまくら

あくまをまふおのゝ小原をなをてゝちとり

赤浦煙波綠　浮沈萬古情

遊子轉添恨　千禽夜夜鳴



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

かくまのふりさけてみれば松のこずえをまれにあけて
海ぶねの花のかすかに見るゆふぐれ

遁跡深山裏　松扉偶一開

新花顔色好　華露濕衣来

雪晴れ山を雪うとぬきは雪ふりあとて花ぬふきよ

芳山春欲晩　白雪夏霏霏



仔細看山樹　残花成雪飛

きぬ〳〵ふあるものもつとを今さらにうきを別れ
のそでぬれうつゝなるまぬ昔偶ぶるもの

暁来悦情話　欲別淚先流

昔日未相識　那知今日愁

いく夜かさまくなるけれ来ぬうつゝあるるく

身は老ぬとも思へども一夜は妻も見るよりは

幾宵投妾宿　一旦送君回
君如不棄妾　時復踰墻來

堂上あかしとみさを見れいるふをいりもの有るる

縱不遇良人　但願得尺素
尺素如可得　良人似還遇



たゝ春はかすみ多くしんたいの身はひ尚

濃艶花滿枝　枝高不可折
徒羨雙飛鳥　妾心獨斷絶

花のタはちきりとなるもちゝ分のなさを今はあぐ

春宵君不見　獨對落花風
伊昔情無盡　只今歡已空

国立国会図書館　豔歌選 208-101
ガラス使用

海ぐ称もてゝ及たまつゝふそでもゑひと思ひもひうつゝとふけ
てさゝぬまゝのきぬ衣をゝうすきたゝひそうひぞあゝとちよ

耿耿猶未寐　就枕無所樂
胡思復亂想　夜深奈被薄

ゆきむかさゝとたのひたるの猶ぬあぎちもてふ
思れくとそもふりつきすひるぶしよりゆ



花際雙蝴蝶　聯翩常不離
閨中君與我　也是兩心知

人ゝ思むもまゝ思ふもまりし於とゝ寄れとゝ
思うゝひすのるひてゝゝ影日の抜ゝでのうゝ

妾恨有誰知　從它輕薄兒
青樓春夢覺　紅淚聽黃鸝

国立国会図書館　豔歌選 208-101
ガラス使用

いつふるうしきまさとえきまさてもいつる客にもあハねばなるぬ

倡流勞送迎　此夕又何苦

逢客不相悅　忍態尚歌舞

あたぬつるさにおぐまじよりもなのめてもるる鐘ぬ

昔時未相値　但含眷戀情

更堪今夕別　暗黙聽鐘聲



ぬたるるるをを形徒てほんのめふ少て

いたるるるるはいあをむのるれかるるる

早晩辭倡門　裙帶爲君解

當變今日愁　却成昔時話

あけてちりるんくまてちるまなるまち後をを

ぬの色も春も沖まもんるるき喜のう勢

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

陽春三月盡　朝暮花辭枝
萬樹無佳色　香風只自吹

[illegible]
凄涼獨酌酒　聊欲忘憂思
憂思不可忘　滿酌難成醉
凄涼[illegible]思[illegible]



[illegible]
秋思瓊樓婦　紅妝玉筯寒
清風吹皎月　深坐捲簾看

あぢふるまくをいくもくるしのうつ[illegible]
治郎工軽薄　舌話挑少女
少女羞未應　肚裡已相許



国立国会図書館　艶歌選 208-101
ガラス使用

花とこそ見るまでもあらぬ春の雪
もあぐにちるすがたのうら淑し

女兒正堪嫁擇對猶未得
春風逢落花幽閨惜顏色
ふりあつる世人の夢ぬすみ出の人の花
歌送東關人舞迎西海客



爲月還爲花春朝又秋夕
いとゆかしくあひ男とたまさかにふけて遊女の惜しと思ふ
倡姬留萬客別自有情郎
邂逅歡無極殘宵惜不長
おりゝをしくの花とこのひとつ見てゝ
春の孫さそそのあつを我おもひ出とと



国立国会図書館　艶歌選 208-101
ガラス使用

ふるさとのそらと分もよのもなくまてよ之のか

郎心不レ可レ測　曾擁妾身眠

私語中宵事　尋思苦耐憐

松の葉のもえりうるいさゝたきたち絡さく

里く行まひら戸ハあくる夢の花候聖をよ

香風入レ松樹　携客更尋レ梅





野徑接村路　菜花早已開

松ゝさむき夜ゝ為ゝ猶寒の夢もさふれてうゝ

と硯引よせする墨ちのをとさへちのぶ移ゝ

夜寒寢衣薄　夢斷獨愁長

呵硯還研墨　裁書竊寄郎

多之公命此ちくらけんの袖をたゝて男此方



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

ありそれをとの夜もせをかさりもしぬ人の
やとの花をさくとさはんて名のまを落のうそ

生死曾爲レ誓　阿郎音信疎
嫁作他人婦　舊情終是虚
意そなすひさ男ぢいさして祢るもの恋なをまて酒
女伴麗情多　只言好男事



欲レ眠眠不レ得　把レ酒隨意醉
お臣座敷のさちぬみもふと目あけく祢とかゝ
諸客同筵席　起居咸歡
就中我與レ你　嬌面偶相看
をるめをさしあ爲にはうまきて一梅の梅を原社事さんも
うさよの爲めとちりをてをの爲のををそでのはゆ

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

雪消還雨歇　偶見一枝春

吹笛落梅曲　夢醒淚濕巾

あ〳〵すこしを枕なかるゝまゝゆらぬ春の
おとゝめ〳〵いつもおそるゝさよ　なりし

百憂復千慮　長眠還獨語

伏枕懶梳粧　風寒夜將曙





ゆふゝえて思ふ人ゆへたゆさうにおなりあ人北きげ〳〵み
るるものさとのうきはと先祢てもさめても苦よるゝて

有情人難逢　無情客頻至

倡門倦送迎　辛苦在寢寐

あたゝぬたゝるゝ枕もの夢もほんり那なるの
見てあらよひふうたゝうくんめれやさよ



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

阿郎不可値　遮莫夢中看
但畏傍人賤　枕頭那覓歓
此夜孤燈後　能教此恨消
おとさまは　夢を　さすがるる
秋寒聞砧聲　夜深獨不寐
妻妻閨裡月　徧照儂情涙



夢ふ孫て　老にあそるてうの分そうこやはしあちき
ゑ思ひきりなき女夢の波ふひ見そでまうこ
羨它雙蛺蝶　徘徊花草際
妾思坐何窮　幽獨涙沾袂
ひとりなるる　孤風の身を　なりるる
たまうこ　乃ちうこ　ゆ

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

落月照閨房　歡歸獨夜長
枕頭曉夢覺　裏衣有遺香
けいせいのうるわしぬかとゑ思ひ出されてひそりと
色藝兩專夜　晝亦不敢寐
倡婦恨轉深　寧從蕭郎意
うるわしけいせいのひとりすごすよるもまた




まことに微妙なるものあるかな
大都築小房　合歡誠夫婦
似個好姻緣　異域未曾有
世にもいとおかしきものあるかな　男女のあい
世間誰薄命　薄命惟妾身
千辛復萬苦　總是爲情人


国立国会図書館　艶歌選 208-101
ガラス使用

あるはたゝ[illegible]さ[illegible]るひろにハ[illegible]

あく雪百の[illegible]はゝやらにいろはさそめあしさうれ

春天曉日紅エ無トコロトメル處不ニ春風ナラ

嫩サウ草ウ東アウノ郊カウリ色

緑ミトリ生ス殘ノ雪中

さひさゝふるやゆ[illegible]ハ花ちる

門前櫻正ニ發サク何事ノ繫ツナク君カ駒ヲ



君カ駒嘶ホウテイ且躍アトハ花飛テ滿ミツテ庭テイ衢ク

[illegible]

あつまり屋のおとろ[illegible]

此地問ハ舟ノ人ニ云フ是レ須磨ノ浦

紅アツモリ顔公子ノ墳フン白ノ茅ホウ覆ヲホフリ黄ノ土ヲ

[illegible]

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

郎意欲迎妾
妾身寧得行
行程五百里
風浪轉相驚
舟人出帆去
帆去何時還
江上木蘭橈
挂帆一去遥
房中小娘子
闔戸轉相招
おいてくとまつ夜ハきて門ふ事



昨夜我相待
閨中你不來
今宵我不待
門外你徘徊
恋をするとハおやくもちきゝ恋業乃先とハきよくゞゑひ
伏枕非疾病
念郎爲憔悴
爺孃漫勸藥
不知孩兒意
おいきゝ自ても神自ても ほまきてまひハ ゐ ゐ ゐ ゐ

念レ郎ヲ獨在レ室ニ　伏テ枕ニ幾カ度レ日ヲ

縱メトモ使イ神醫シンスルモ診ミル　安イナクニソ能ク愈ナホサニヤ妾カ疾ヲ

君ハさんごのえらばれよ宵にちりとんさたり

日暮君相ヒ遇フ　倉サウ皇カウ難シ結ヒ歡ヲ

君ハ自ラ似タリ初月ニ　夜深テ不復メ看ヘ

ものもあるよるまくらを自之勢日さすまて孫てかゝる





青セイ年チン總サウ角カク子シ　一ヒトヨ夜ツクス盤ニ交カヒ歡ヲ

紅ベニ閨ネヤ猶ナホ未ダ起ヒニ　白シラ日ヒ出ルル三サン竿カン

ものゝはゝ山のきたこ收山たれさそおゝとゝ思ふるてハな

任サモアラハアレカシ它ホカ函ハコ山ノ陰カゲ

烟ケム雨ウ縱タヒ是レ晴ハレ　冥メイ烟ケム和ノトカニ寒カン雨ウ

無ナシ由ヨシ望ノゾミニ江エ戸ヲ

毎ゝ山のゝたゝふそこ見まゝは山やるすひの恋さり



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

上自高山巔　下臨深溪側
瓜田接茄畦　開花爭美色
だんふまれてうらかうもあのべ衰ハ重垣ぢのうちの
夜來若相問　竊自後門來
前門鎖重疊　不可爲歡開
ほんなもあのてやまうよひを夜ふかあうあうふりもうりと



和尚加窺妾　好乘暗夜遊
月明人自見　慎勿掉油頭
あの橋あえてあさうえてなひゆきうのハかあひしりの
過橋又渡梁　艱危總不避
肯來見賤妾　可憐阿郎意
よひ藁うるひうさあのうんうさゆぎ

美人本巧詐好茗薦阿郎
阿郎試一嘆果然是白湯
宵よりさえて寝るかはなはだるさよりも
閨裡通宵臥擁歡何限情
任它憍外月此夜自陰晴
あふひとりまどろまれぬ人こそ知





一堂始聚首千里終分手
不多常人情但願相歡久
あふとてもまたいつのあるとも思はぬ閨のうち
祈てもさめてもすまされぬ枕ひとつを地獄のうみ
相思不相見日夜在閨房
淚痕濕衾枕寤寐未曾忘



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

見うあの花ハ初とさくりをあれかを葉色
うせてかをるはおとこ[illegible]
灼灼春花發蕭蕭秋葉衰
妾身正如此郎意逐時移
[illegible]せんのそのさちう女かうひさう[illegible]
おりるそやぬさとのあそひあるるそひ

世界諸夫婿誰能守一妻
已遊楊柳陌桃李更成蹊
かあらしひ[illegible]
[illegible]
可憐總角子但去莫爲僧
日月照前路舟車便耐乘




国立国会図書館　艶歌選 208-101
ガラス使用

そなたかなふもうくていとゝひたいゝよそご
松山らくおさゝりてなんの別まそいぬるのぞ

阿郎正相遇ふ思愛踰多娘

松姫逐賤妾

妾豈別阿郎

いなうすまねとうの男ゝと客ゐれさんさん
ゐりとの多とゝていなくゝゐゝまあとみやこれなれ



三娘慣御客　賤妾住田家

辟似深山樹　爭榮上國花

ふすひるお海へゝゝあるまひゝ多程いく
かけてきるせさせ和まくのゝろゝすむゝひる

君非不曉事　非意漫相干

今ニ妾轉於邑　而君豈敢安



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

ところはそこゆく程なるあけやまたくひ
ふるさとにあるをとりかたしあゆみてあるたぬふりうあよそひ

郊外夜無月　祇由小径来

両人不慣歩　携手共徘徊

ふるさとの今はうさはらさそるこそ十三ねひおひの
そもにあどのあるゆくふなはよかるもあくるんぞや

憶昔同游戯　両人楽少年

如今共愁苦　到底悪姻縁

たくひもひくひもひあこものたくふまるのいあぐ
ひとりおそ兄弟もありすてくとのこふ法くら世のおく

貴賤雖異等　婦道皆従一

已辭爺嬢家　當做夫婚室



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

女の方にうけもるふいやひるすうんぎさるされあつかまひと
ぢいきを死ちるものつぎふ出れさいこるふるおやよふさいくら

婦女皆罵余　唾面不再看

恨殺爹與娘　生下個醜漢

すくきらふとゐはいまざむすめ産れあとやさくさ
ちゆくゆくはぢをうりもこうちそ乃犬のこゑ



夜行整容態　處女路傍情

擬共阿郎死　愁聞犬吠聲

四十ちろひ身をもつてナ四そこうのふ娘といふちよふ
ちんこうきりちろ人と世四れ人のもうひのこ孫

四十吾將老　十四子猶少

相死如同穴　恐爲世人笑



国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

さゝまりて　あさこゝえて　いつまよみえんてかさんせ
そ見てかく見らみえみるにもえんさるゝ貞女と
あるまでりしこと海ざかえるまるもあろ

歡能知命定　當與儂同死

爹娘雖悪儂　或稱烈女子

豔歌選初編終

烏有先生學稽絶倫爲人
狷達不拘嘗生郷里爲俗徒
所忘乃飄然而去遊于四方
好以嘯傲放浪詩酒近者
輯青樓戯謔而揮彩毫

凡そ手を墨染めの
衣にはかれ
深山の嵐の風
雪を悲しみ
雲の中の
帳の
内の
月を
見て
文を
見て
先生の
教を
聞き
煙を
識

酒
風
流
世
を
酒
風
流
を
飛
傷
生
酸
鼻
是
乃
先
生
所
知
先
生
や
家
安
貧
樂
道
学
問
親
先
生
者
而
勝
員
を
撰
思
作
和
歌
光
豊
漢
詩

208
101

# 艶歌選二編 五言古 七言絶 嗣出

安永五年正月

京師　武村嘉兵衛

浪華　幾竹屋多八

同　丹波屋半兵衛

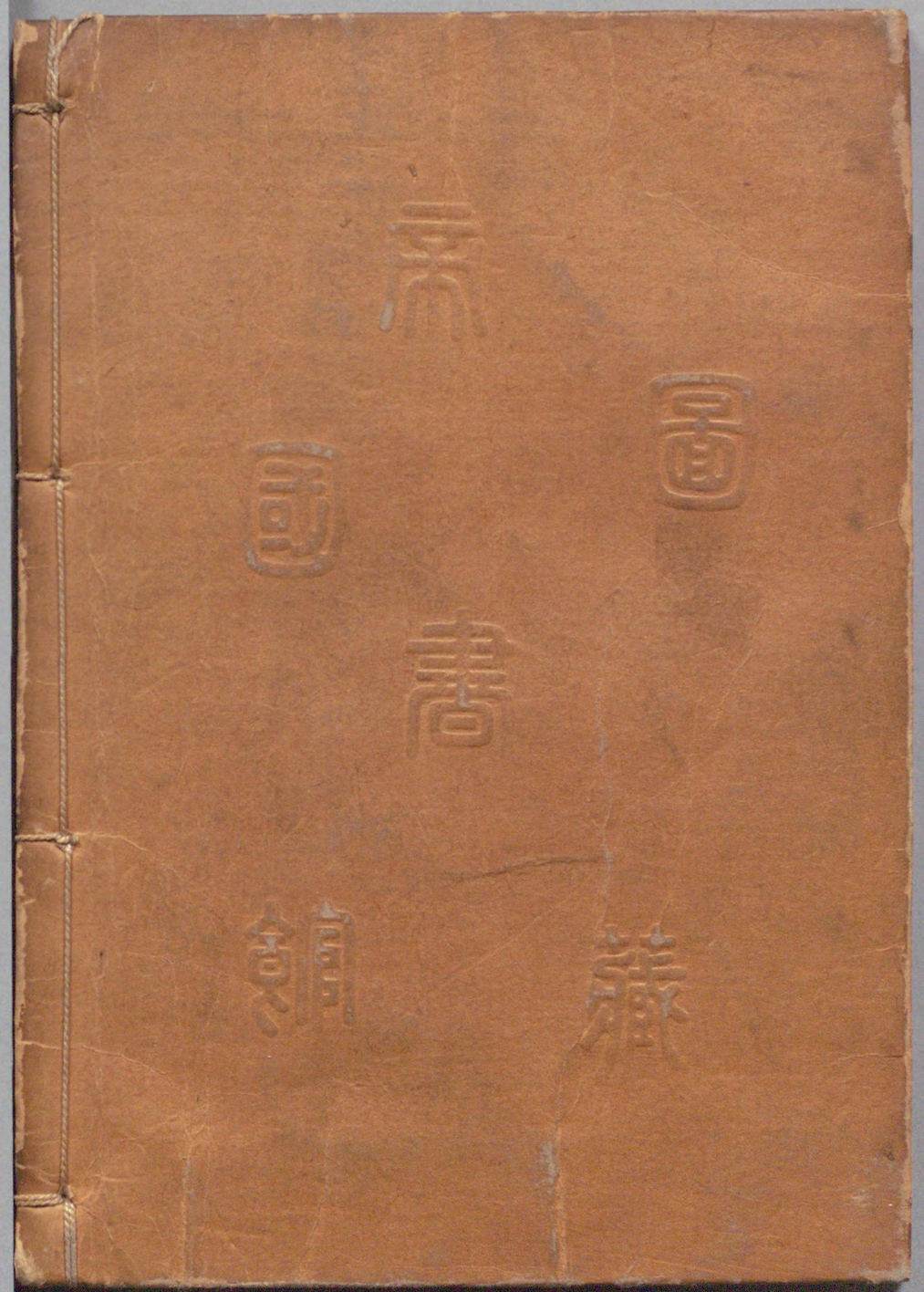
国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用

208
101

国立国会図書館　艶歌選 208-101

ガラス使用




国立国会図書館　　艶歌選 208-101

ガラス使用